



令和3年度 2学期終業式

学校長の話

令和3年度も、コロナウイルス感染拡大の中で、たくさんの制約や制限を受けながらの学校生活となりました。しかしながら、その中でも、みなさんは、日々の授業や生徒会活動、部活動、体育祭や文芸会など、新しい工夫を加えながら、どんどんと高志中等教育学校の教育、活動を発展させてきました。

先日の総合・探究の発表会では、一人一人が、しっかりと自分の学びの成果を発表し、また、互いにそれを受け止め、意見や感想を交わす姿が見られました。学校の中だけではなく、当校の教育活動は、大学の先生方や地域の方、経済産業界の社長さんや様々な行政、NPO法人の方たちからも関わっていただき、その出会いの中で、みなさん一人一人が貴重な学びを得ることができたと思っています。

志は、高い志をもつ人と出会うことで、種がまかれ、育まれるものです。誰と出会うか、誰とどのように関わるかが、あなた自身の学びの質を変えていきます。

私の高校の同級生で、現在、新潟市教育委員会で教育次長をしている池田浩さんは、自分の心に「火」をつける言葉を探し、記録し続けてきたといいます。

現在、800にも及ぶ、その言葉には、「志をもつとは、言葉をもつことである」「生きている以上、人に迷惑をかけているのだから、人を許せ」「水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れない」「変化が進化」などがあり、自分の力のなさにくじけそうになった時には自分で自分を励ましてきたといいます。そんな彼に、今、一番響く言葉は「変えられるのは、自分と未来だけ」という言葉だそうです。

この言葉は、黄熱病の研究で世界に貢献した細菌学者である野口英世さんの言葉だそうです。

私は貧乏な家に生まれ、小学校しかでていない。

しかし、過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。

なぜなら人生で変えることができるのは、自分と未来だけだからだ。

私が小学生だったときに、様々な偉人の伝記を読みました。野口英世、ヘレンケラー、キュリー夫人、エジソン、ノーベルなどなど、世界に貢献した偉人たちの多くは、初めからそれが約束された幸運な人生を歩んできたわけではありません。むしろ、多くの困難や挫折の中で、それでも、様々な人との出会いや不屈の精神によって何かを成し遂げてきました。

偉人だけでなく、身近な家族や友達、先生方や様々なゲストや講師の方たち、誰もがもっている善さや志を敏感に感じ、それを支えることで、逆に自分の力や意欲、元気に変えることができます。

「変えられるのは、自分と未来だけ」

この言葉には、大きな矛盾があることにみなさんは気づいていますか？

「未来」は、自分だけのものではありません。

自分をよりよく変えることで、「未来」が変わる、世界もよりよく変わるのです。

そんな自分だけのものではない、多くの人が幸せになる「未来」を、みなさんには求めてほしいと思います。

今、この世界には、たくさん問題、課題があります。

よりよい「未来」を創り出すのは、みなさん、一人一人です。

あなたは、今、何から始めますか？

ちっぽけな、けれどもかけがえのあなたは、どんな風に変わりたいと思いますか？

1年の成長を振り返り、新たな目標を、そして、今ある「志」を、より確かなものにしてほしいと思います。

大きく成長したみなさんが創り出す「未来」は、私が生きる「未来」でもあります。私も、みなさんと同じように、今ある「志」をより確かなものにしていきたいと思っています。